

筒森トンネルだより

発行元:五洋・片岡特定
建設工事共同企業体

夷隅郡大多喜町葛藤
603-1
0470-80-9467
渡辺 憲一



君津側坑口での説明の様子

筒森地区見学会

(仮称)筒森トンネルも貫通後の覆工作業を完了し、起点側の明かり巻き作業がメインとなりました。今までご迷惑をおかけした地元の方々へのお披露目として見学会を開催しました。

見学会は2月5日(日)に地元筒森地区の皆様、2月14日(火)に老川小学校5・6年生を対象に実施しました。

前日までの強風も止み、比較的暖かな2月5日の午後に実施しました。

当日は52名の方にご参加頂きました。最初に今までの施工状況をパネルを使って説明しました。この後、君津側の入り口からトンネルの中に入って頂き、トンネルの出来具合を見て



トンネル内を移動中の様子

た。中にはその表示の前で記念撮影をされているご家族もありました。

トンネルの中を約400

頂きました。

このトンネルは住宅地の地下の比較的浅い部分を掘削するという特殊なトンネルで、トンネルのルート上には3軒の住宅が存在しています。各住宅の真下にはそのお宅の名前と地上までの距離を表示しておきまし



大多喜側坑口の様子

m歩いて頂き、大多喜側の坑口まで出ました。国道の大曲りのところから、筒森集落の真下を通って大多喜側入り口まで歩いたことになりました。

お忙しい中、見学会に参加頂いたことをこの紙面を借りてお礼申し上げます。

老川小見学会

老川小5・6年生の見学会は2月14日に開催され、30名近くの方に参加頂きました。あいにく小雨模様でしたが見学の最中にはほとんど止みました。

現場到着後、夷隅土木事務所大多喜出張所と五洋・片岡JVによる工事概要説明がバスの中で行われました。この後、トンネル内に

入るトンネル内を歩き、大多喜側の坑口に出て、ここで質問タイムとなりました。さすがに小学生、JV土木職員がドキッとするような質問もいくつか出ました。

トンネル内を引き返し入り口付近で、トンネル背面より導いている湧水吐口を見て頂きました。



坑内に入る小学生のみなさん

入り工事に使用した資材の实物を手にとって見学して頂きました。また、トンネルの測量に使用したレーザー測量機を見て頂きました。

トンネル坑内を歩き、大多喜側の坑口に出て、ここで質問タイムとなりました。さすがに小学生、JV土木職員がドキッとするような質問もいくつか出ました。

トンネル内を引き返し入り口付近で、トンネル背面より導いている湧水吐口を見て頂きました。

3月の工事予定

先月号でお伝えしたとおり、3月はトンネルの仕上げ工事を行って行きます。

最初は円形水路と円形水路に取り付ける集水枡を施工します。円形水路はコンクリート舗装の型枠の一部となります。この後、道路の縁石を取り付けます。コンクリート舗装はレール上

を走行する数種類の機械の組み合わせで工事します。縁石はこのレールの基面ともなります。

工事に使用する集水枡や円形水路、縁石は工場で製造された物を搬入します。

トンネル掘削中ほどではありませんが、国道出入りがありますので、引き続きご協力をお願いします。



みんなで集合写真撮影



坑内での説明の様子

最後に君津側坑口をバックにみんなで集合写真を撮りました。

なお、今回の見学会には「千葉日報新聞社」から記者の方が取材のため同行しました。

トンネル余話

トンネルを掘る上で難敵は数々あります。前に書いた水ばかりではありません。

硬くて掘れないトンネルの掘削にはダイナマイトの発明が大きな進展をもたらしたことは以前書きました。これは掘り方の革命でした。

掘った直後のトンネルを支える方ではNATMという考え方が革命をもたらしたと言っているでしょう。

地下水の多い都市部や海底部では、シールド工法という全く切り羽(地山)を見ずに掘る方法が発案されました。閉鎖空間だけでトンネルが掘れてしまう方法です。

この他の難敵と言えば高熱が挙げられます。地下には地球の内部から、火山活動による熱が上がつてきます。

吉村昭の小説で「高熱隧道」という本があります。戦前の水力発電所の水路トンネルを扱ったものです。岩盤の熱でダイナマイトが自然発火するほどの難工事を描いたものです。

多くの犠牲を払いながらそれでも掘ってしまった先人達の努力に心より敬服します。